

## 試験研究（中間）評価整理表

試験研究機関名 農業総合センター

所管グループ 研究開発グループ

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	理由	外部評価アドバイザー意見
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
1	消費者の視点を重視した県産農産物の安定供給	安全な農林水産物生産技術の開発	環境保全型土壌管理調査	平成15年策定の「重金属の蓄積を防止するための有機物等の施用指針」の効果的な運用を図るため、耕地土壌の亜鉛の天然賦存量を明らかにする。また、重金属類の吸収抑制技術の開発を行う。	1 県内農耕地土壌の亜鉛天然賦存量実態調査 2 作物への重金属類吸収抑制技術の開発	H18	H22	B	本課題では単なる土壌中重金属の実態調査に留まらず有機物中の重金属濃度の実態調査および新たな技術開発にも取り組んでいることから、来年度も継続して実施すべきである。	これまでの研究で県内の重金属賦存量の実態解明という重要な成果を挙げ、研究後半期の「重金属吸収抑制技術開発」に大いに期待する。来年度も継続実施すべきと考える。
2	消費者の視点を重視した県産農産物の安定供給	安全な農林水産物生産技術の開発	難防除病害虫防除技術の確立	難防除病害虫や新規発生病害虫の発生は地域の気象や土壌条件等に大きく影響されるため、発生状況を把握し、農業生産現場に適応した病害虫防除技術を確立する。	1 難防除病害虫や新規発生病害虫の発生生態を明らかにする。 2 難防除病害虫や新規発生病害虫の防除法を開発する。	H18	H22	B	難防除病害虫や新規発生病害虫に対する防除対策の確立については、現場からの要望が多く、来年度も継続して実施すべきである。	多くの病害虫に取り組んでおり、意欲的である。今後さらに新たな問題の発生も予想される。よって、より効率的に研究を進めるため、独法や公立試験場ならびに大学や民間とも連携し、競争的資金等の活用も必要である。
3	持続性の高い生産方式の導入	環境保全型農林水産業を確立するための技術開発	県内に流通する多様な有機物の特性評価	多様な有機性資源のデータベースを作成し、有機性資源の有効利用促進に役立てる。	1 多様な有機性資源の成分特性把握 2 重金属の土壌残留評価 3 多様な有機性資源の養分溶出特性の把握 4 多様な有機性資源の簡易的品質評価法の確立	H18	H22	B	有機性資源の有効利用は本県農業施策の主要課題であり、また、安全・安心な農業の推進にもつながることから、次年度も継続して実施すべきである。	有機質資材の成分分析をしてデータベース化することも重要だが、作成したデータベースの提供方法についても検討する必要がある。分析データをただ単に表にまとめて示されても使う側にとっては利用価値が低い。各資材毎に分析結果から予想される特徴や施用効果、有効な使用方法等をマニュアルとして提供する工夫が必要である。
4	農業生産力の発揮と特色ある農業の推進	農産物の積極的な生産拡大・安定生産のための技術開発	県オリジナル品種の高品質・安定生産技術の確立	本県で育成した県オリジナル品種の栽培特性を検討し、高品質・安定生産技術を開発する。	1 イチゴオリジナル品種のうどんこ病抑制技術や早期安定収穫技術を確立する。 2 アスパラガスオリジナル品種の半促成長期どり栽培における安定生産技術を確立する。 3 リンドウオリジナル品種の栽培様式や肥培管理技術を確立する。	H18	H22	B	本県オリジナル品種に対する期待は大きく、また新たな品種も育成されたことから、継続して取り組むべきである。	県オリジナル品種の作出は、地域産業振興に貢献するものと思われ、今後も推進する必要があると思う。しかし、過度な一元化は、病害虫の大発生や連作障害、生産過剰や作期変動による値崩れなどが懸念される。よって、計画的拡大が求められる。また、普及後のフォローアップも必要となる。
5	農業生産力の発揮と特色ある農業の推進	農産物の積極的な生産拡大・安定生産のための技術開発	主要花きの有利販売のための高品質生産技術の確立	主要な切り花及び鉢花の高品質安定生産技術を確立するとともに、夏期高温期の高品質切り花の長期間出荷のための栽培技術を開発する。	1 トルコギキョウ等施設切り花の夏秋期出荷における高品質生産技術を開発する。 2 キク等露地切り花の夏秋期出荷における品質安定生産技術を開発する。 3 シクラメン等鉢花栽培における高品質生産技術を開発する。	H18	H22	B	主要花きの高品質化、安定生産、省力化は重要な課題であり、研究目標の達成のためには、細部設計を見直しつつ、継続して実施すべきである。	生産現場に活用できる具体的成果が上がっていると思う。普及しうると認められた成果については早急に現場に下ろす必要がある。
6	農業生産力の発揮と特色ある農業の推進	農産物の積極的な生産拡大・安定生産のための技術開発	会津地域の特産的園芸作物の高品質・安定生産技術の確立	1 県オリジナル品種の安定生産技術の確立。 2 カスミソウの品種の促成栽培による安定生産技術の確立。紫アスパラガスの安定生産技術の確立。伝統野菜の特性調査、種子の保存等を行う。 3 アスパラガスの安定栽培技術の確立。	1 県オリジナル品種の栽培法の開発をすすめる。 2 シュウコンカスミソウの作型開発、紫アスパラガスの生産安定技術の開発、会津伝統野菜の特性調査並びに種子保存等を行う。 3 アスパラガスの安定生産のための栽培技術を開発する。	H18	H22	A	園芸産地プロジェクトの最重点品目と伝統野菜に課題する場合は、それぞれの拠点の地域性や特色を活かすため、研究計画を改善し、優先して実施すべきである。	農業総合センターや浜地域研究所と同じ対照を試験する場合は、それぞれの拠点の地域性や特色を活かすため、十分に連携しながら試験研究を実施していただきたい。
7	農業生産力の発揮と特色ある農業の推進	農産物の積極的な生産拡大・安定生産のための技術開発	浜通りにおける野菜・花き類の安定生産技術の確立	浜通りの気象特性を生かしたアスパラガス、イチゴなどの県オリジナル品種、及び土地利用型園芸作物の安定生産技術、栽培体系の確立。	1 浜通りにおける県オリジナル品種（施設、及び露地園芸品目）の安定生産技術の確立 2 浜通りにおける土地利用型園芸作物の安定生産技術の確立	H18	H22	A	「ふくしまグリーンベルト形成プロジェクト」を加速させるには、試験研究においても重点品目を課題化し積極的に取り組むべきである。	農業総合センターや会津地域研究所と同じ対照を試験する場合は、それぞれの拠点の地域性や特色を活かすため、十分に連携しながら試験研究を実施していただきたい。
8	農業生産力の発揮と特色ある農業の推進	農林水産物の高品質化と一層の省力・低コスト生産のための技術開発	ふくしま型ネットハウス利用による高品質・低コスト生産技術の確立	ふくしま型ネットハウス栽培について、各種野菜や花きへの適応性を検討し、各々にあった栽培方法を確立することで適応品目の拡大を図る。	ナス、キク栽培における問題点を解決し、栽培技術を確立する。また、新規品目であるピーマン等の適応性を検討するとともに、ネットハウス内の環境条件を解明し、各々の作物に適した栽培法、資材、施設構造等を決定する。	H18	H22	B	生産者、消費者双方にメリットがあり、本県農業の振興に寄与するものであるため、継続して実施すべきである。	ユニークなテーマであり新たな知見多数得られている。目標に着実に達成してもらいたい。

試験研究（中間）評価整理表

9	農業生産力の発揮と特色ある農業の推進	農林水産物の高品質化と一層の省力・低コスト生産のための技術開発	会津ブランドを目標とした水稲生産技術の確立	省力・低コストで気象変動に左右されない安定した栽培技術を開発する。また、エコファーマーを支援する技術メニューを開発する。	・安定的な直播栽培技術の確立 ・高温気象下における高品質生産技術の開発 ・持続性の高い水稲生産技術の確立	H18	H22	C	直播栽培の試験については、2カ年の試験結果や新たな問題点の発生より、計画の見直しが必要である。	出芽障害が基本技術を守らないことが原因であると証明できれば、大きな成果である。また、直まきにおいては、赤米の混入だけでなく、違う品種の混入も問題になっていると聞いているので、解明が待たれる。また、栽植密度と品質との関係では、品質の何を対象としたのか。また、栽植密度は品質に影響しないことが明らかになれば、重要な情報である。
10	地域産業の振興	中山間地域の産業振興を支援するための総合的な技術開発	中山間地域の立地条件および圃場条件に対応した機械化省力技術の開発	中山間地域に対応した機械化省力化が可能となる作業技術を開発する。また、特産物などの作物を対象とした農業機械等を開発し、特産物の振興を支援する。	1 傾斜ほ場に対応した機械化省力技術の開発 2 メーカーが対応しない地域特産物等のマイナー作物用の農業機械の開発	H18	H19	C	実用化に対応した開発とするため期間を延長する必要がある。	現地農家と連携しての研究で、地味だが貴重な成果を挙げつつある。1年の延長を適切と考える。
11	地域産業の振興	中山間地域の産業振興を支援するための総合的な技術開発	中山間地域の花き産地の拡大	中山間地域の水田転換畑を活用したリンドウおよびシュコンカスミソウの高品質安定栽培技術を開発し、南会津等の既存産地の活性化および阿武隈高原等での新規産地の育成のための支援技術を開発する。	1 リンドウ越冬芽形成のメカニズム解明及び遮熱、防虫ネット等資材を用いた品質向上、日長制御等による開花調節技術等を検討する。 2 シュコンカスミソウの蕾採花等の省力化技術等を検討する。	H18	H22	C	中山間地域の花き産地振興のため、研究計画を改善して実施すべきである。	リンドウとシュコンカスミソウは本県中山間地花卉の重要品目であり、重要な研究課題である。やや事前の研究計画と進捗状況に齟齬があるようであるが、計画の一定の見直しを行い、初期の研究目標を達成していただきたい。
12	農業生産力の発揮と特色ある農業の推進	経営管理技術及び生産・流通システムの高度化	農業法人の経営管理手法と地域連携方策の構築	地域連携型の法人の成立条件と経営分析手法を解明すると共に、地域連携と経営継承方策を明らかにする。	農業法人の経営実態調査から、地域連携型法人における経営管理の特殊性を明らかにして診断方法を検討すると共に、地域連携の観点から経営発展と経営継承について解析する。	H18	H22	C	研究成果を早期に取りまとめ、速やかに現地へ普及するため、研究期間を短縮して実施すべきである。	確かに現下の重要な課題であり、5年間という期間はやや悠長であったかもしれない。特に経営に関わる研究については最長3～4年程度がおおよその目安かもしれないと考える。
13	1農業生産力の発揮と特色ある農業の推進 2消費者の視点を重視した県産農産物の安定供給	安全な農林水産物生産技術の開発	生物・微生物農薬を利用した害虫防除技術の確立	殺虫剤削減防除体系をより安定して実施するための防除手段として、生物・微生物農薬の利用技術を開発する。	従来、施設野菜に利用されてきた生物農薬等の資材を果樹園で利用し、化学合成殺虫剤の使用量を削減する。土着天敵、放飼天敵を有効に利用する環境を検討し、より省力的な防除技術を開発する。	H18	H22	B	研究計画どおり実施されており、来年度も継続して実施すべきである。	減農薬・減化学肥料生産技術が求められているなかで、本課題は重要であり、成果も出ているようである。一般的に、このような技術は不安定な面も指摘されていることから、よりいっそうの技術の安定化が求められる。
14	1農業生産力の発揮と特色ある農業の推進 2消費者の視点を重視した県産農産物の安定供給	農産物の積極的な生産拡大・安定生産のための技術開発	ブドウ「あづましずく」等における省力・高品質栽培技術の開発	「あづましずく」の新短梢せん定を主要技術とした栽培法を確立し、作業性の向上と高品質果実生産を実現する。また、「あづましずく」の栽培マニュアルを作成する。	「あづましずく」に新短梢せん定を施した場合の生育管理を把握する。同時に、新梢及び着果管理等の管理技術を検討し、栽培体系に関するマニュアルを作成する。	H18	H22	A	「あづましずく」の省力的で高品質果実を安定的に生産できる技術の開発を積極的に取り組むために、計画を拡充して優先的に取り組むべきである。	・今回のテーマは低いコストで効果は確実なものである。県オリジナル品種であり当初予定は着実に達成してもらいたい。 ・オリジナル品種「あづましずく」が店頭に並ぶのを見るようになりました。さわやかな甘さが大変気に入りました。生産者においては高価値が生産意欲に結びついていくのではと思われました。
15	1農業生産力の発揮と特色ある農業の推進 2消費者の視点を重視した県産農産物の安定供給	農産物の積極的な生産拡大・安定生産のための技術開発	地域特産果樹の農業登録促進試験	地域特産果樹振興のために、本県産イチジクの病害虫の発生状況を把握し、これらに適用可能な農業の検索と農業登録のための基礎的データの蓄積を図る。	イチジクの病害虫の発生状況を調査し、対象病害虫に対して必要な農業の基礎的データを蓄積し、防除体系を策定・充実させる。	H18	H22	D	目標に早期に達成できる見通しとなったため、	5年間の計画を2年間で終了というのはいかにも早すぎる感があるが、初期の研究目標を達成したとすることで、見直しは適切と考える。ただしマイナー果樹についてはなお多くあるので、当該品目の経営的重要性・防除課題の深刻さなどを勘案して、新たな品目についても研究対象の拡大の必要性はないか否かを判断いただきたい。
16	1農業生産力の発揮と特色ある農業の推進 2消費者の視点を重視した県産農産物の安定供給	農林水産物の高品質化と一層の省力・低コスト生産のための技術開発	主要果樹(モモ、ナシ、オウトウ)の高生産性省力型樹形の開発	モモの低樹高省力型樹形、ナシの波状棚、オウトウの平棚を利用した高生産省力型樹形を開発するとともに、マニュアル作成を行う。	モモの低樹高省力型樹形、ナシの波状棚、オウトウの平棚を利用した高生産省力型樹形における生産性や省力性について検討し、労働負荷の数値的評価とともに、整枝法を始めとした栽培管理法を明らかにする。	H18	H22	B	研究計画どおり実施されており、来年度も継続して実施すべきである。	栽培技術の進化を実感させる数々の技術が得られている。当初予定を着実に達成してもらいたい。

## 試験研究（中間）評価整理表

17	農業生産力の発揮と特色ある農業の推進	付加価値の高い畜産物の生産・加工技術の開発	高品質肉豚生産技術の確立	豚肉の高付加価値化・銘柄化による競争力強化のため、機能性物質の高度活用による豚肉の銘柄化と飼養環境の改善による高品質な豚肉の生産技術を確立する。また、未利用資源を活用した肉豚生産技術を開発する。	機能性物質の高度活用による豚肉の銘柄化や飼養環境の改善により高品質な豚肉の生産方法を検討する。また、未利用資源を活用した肉豚の生産方法を検討する。	H18	H22	B	「機能性物質の利用」については計画通り進んでおり、高品質な豚肉の生産技術に必要である。また、「未利用資源の活用」については早急な開発が求められており、計画を早め実施すべきである。	アンセリンの肉100グラムあたりの量と健康に効果を与える量の関係が気になる。機能性食品的に「差別化」は可能であり期待するが、消費者として期待できるものなのかどうかの検討も必要である。未利用資源の活用は循環型社会づくりとしてあらゆる消費と生産現場に必要な視点であり、養豚の場合は伝統的な方法である。「飼料化」技術は堆肥化とは違い難しさを感じるので手法を検討のうえ実施すべきである。
18	豊かで魅力ある農業の振興	農林水産物の高品質化と一層の省力・低コスト生産のための技術開発	省力化技術を活用した乳用牛育成管理技術の確立	遊休農地を有効に活用した放牧育成技術や哺乳ロボットなど新技術を活用して、コストや労力を削減した育成管理技術を確立する。	遊休農地の活用による放牧管理技術や、哺乳ロボットなどの新技術を活用した省力的な管理育成方法について検討する。	H17	H21	B	早期放牧による省力育成管理は後継牛の自家育成・確保を実現するために必要な技術である。早期放牧による経済性についての検討も行い継続実施すべきである。	本県の酪農家にとっても、また全国一の遊休農地を有する本県農村にとっても重要な課題であり、継続実施すべきである。

### 試験研究機関名 林業研究センター

#### 所管グループ 研究開発グループ

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	理由	外部評価アドバイザー意見
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
1	21世紀の豊かな森林、活力ある林業・木材産業づくり	本県に適した高品質で優良な品種の開発と家畜の改良	マツノサイセンチュウ抵抗性マツの育種と効率的な増殖に関する研究	抵抗性マツの大量生産技術を確認するとともに、海岸砂地など劣悪環境下でも生存でき、さらに高い抵抗性も維持できる抵抗性マツを生産する。	人工交配によって抵抗性個体の作出を行う。また、現在の採種圃の改良法や抵抗性個体のクローン増殖法、抵抗性の簡易検定法を開発する。さらに、菌根菌を感染させた抵抗性マツ増殖技術を開発する。	H18	H22	A	劣悪な環境下でも高い抵抗性が維持できるクロマツの生産技術を確立するためには、本課題を優先して拡充する必要がある。	抵抗性マツの育種等を効率的に実施するためには、抵抗性の簡易検定法の確立が優先されるべきと思われるので、年次計画においても早い段階での確立が求められる。
2	21世紀の豊かな森林、活力ある林業・木材産業づくり	付加価値の高い農林水産物生産・加工技術の開発	ナメコ有効成分を増強する栽培技術	ナメコの有効成分を探索解明し、併せてこれらを強化する栽培法を開発することにより本県産ナメコの差別化を図り、有利販売に結びつける。	ナメコの有効成分を評価し、ナメコで優位性を持つ成分の特定を行った。現在、その特定成分を強化する栽培法の検討を行っている。県が保有しているナメコ育種母材からより高い食品機能性を持つ新たな品種を作出する。	H16	H20	B	今後も、計画どおり交配株の栽培試験を行う必要がある。	この食品の一大産地は福島県という評価が得られるような、生産者に活力を与えるような食品の作出のため、経済性検証で確かな実績を得ていただきたいと思えます。
3	21世紀の豊かな森林、活力ある林業・木材産業づくり	県土の多目的機能発現のための森林環境管理技術の開発	森林構成と土砂流出防止効果	上流域の森林の状態と土砂流出量の関係を明らかにし、治山事業計画や森林整備に反映させるとともに、土砂流出防止機能を住民、県民に広報する。	治山ダムの調査検討を行い、試験対象圃を選定した。今後、森林整備が林地の土砂流出や治山ダムへの土砂流出量に及ぼす影響を調査、解析する。	H16	H25	C	調査箇所が限定され、目的である県民への広報は困難となったが、得られるデータは基礎的なものとして貴重であることからデータ収集に変更して実施すべきである。また、新たな調査手法を追加し、期間を短縮すべきである。	新たな調査手法を追加して期間短縮の努力をしたことは適切であると考えます。
4	21世紀の豊かな森林、活力ある林業・木材産業づくり	中山間地域の産業振興を支援するための総合的技術開発	連作地におけるキリ適正管理技術の開発	会津桐資源を確保するため、キリの連作地において植栽苗を健全に育成される土壌の管理方法を確立する。	連作地における土壌の化学性、物理性の変化の調査を行った。今後は、連作障害の原因を解明するとともに土壌改良法及び管理方法について検討する。	H16	H20	C	土壌化学性のバランスが大きく崩れていたことが連作障害の要因の1つとして考えられるため、保肥力を高める施肥試験を追加して行うこととする。	所定の研究計画実施の中で得られた成果を活かした計画改善であり、適切だと考える。

### 試験研究機関名 内水面水産試験場

#### 所管グループ 研究開発グループ

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	理由	外部評価アドバイザー意見
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
1	豊かで魅力ある水産業の振興	水産資源の持続的利用技術の開発	ヒメマス増殖技術の開発	ヒメマスの資源及び漁場環境をモニタリングし、適正な漁獲（漁業・遊漁）、放流方法の検討を行い、安定生産に向けた提言をする。	ヒメマスの加入（放流）量、漁獲量、漁場環境（餌料生物、水質等）調査を実施する。これまで、全長別漁獲尾数、成長（満1歳まで）、放流状況について明らかにした。今後、成長に関する部分、漁獲量、漁場環境調査、漁業実感から資源状況を把握する。	H18	H22	B	適正な漁獲、放流方法を検討するためには資源の現状把握、漁場環境の把握が欠かせないことから引き続き調査を実施するべきである。	着実に到達目標を成し遂げるよう期待する。
2	豊かで魅力ある水産業の振興	農林水産物の高品質化と一層の省力・低コスト生産のための技術開発	フナ粗放養殖技術の開発	フナ放流用種苗を県内で安定生産するために、親魚養成、採卵、種苗生産技術の向上を図る。	養殖業者ため池、休耕田ため池のフナ生産状況の聞き取り調査と場内試験池での種苗生産試験を実施した。今後、親魚養成および採卵、種苗生産試験を実施する。	H18	H22	B	フナ放流用種苗の県内安定生産のために種苗生産技術の効率化、採卵用親魚の養成方法を確立する必要がある。	他の養魚では確立されているテーマだと思えますので着実に到達目標を成し遂げるよう期待する。